

# 複数のDB統合

## ゲノム創薬向けシステム

阪大が開発

大阪大学情報科学研究科の松田秀雄教授らは十三日、遺伝子情報を利用して医薬品を開発する「ゲノム創薬」向けの情報システムを開発したと発表した。遺伝子情報などを収録した十一種類のデータベースをあたかも一つのデータベースのように利用できる、医薬品の

候補物質を効率的に見つけ出せる。製薬企業が今後システムを試験利用する。

文部科学省の研究プロジェクトの一環。阪大のほか、日立ソフトウェアエンシニアリングなど情報五社と財団法人の蛋白質研究奨励会が開発に参加した。

日米欧に分散している十一種類のデータベースをネットワークで結びつけて利用する。医薬品の標的となるたんぱく質などの情報をもとに、医薬品として使える物質を検索する。「データグリッド」と呼ぶ情報技術を利用した。たんぱく質、薬物、遺

伝子、化合物など多様な情報を一度に取り扱うことが可能。検索作業を大幅に効率化できる。

使用者の熟練度や検索内容にもよるが、それぞれのデータベースを個別に検索する従来法で数週間かかる作業を、数分に短縮できる可能性があるという。

今後、同プロジェクトに協力している塩野義製薬など製薬十社が新システムを試用。検索精度や使い勝手を確認する予定だ。